

平成24年度 自己評価計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
1 全教職員が意欲的に各自の課題に取り組み、自らの資質向上に繋げる。	① 個に応じた学習指導の実践を目指し、研究授業・公開授業、指導案検討会を実施する。	「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	第1回授業評価結果 全校 70.6% 評価 D 第2回授業評価結果 全校 72.1% 評価 D 〔1年 66.5%→70.5%〕 〔2年 72.9%→73.1%〕 〔3年 69.8%→69.5%〕 〔専攻科 74.8%→77.1%〕	第1回授業評価と比較し、3年生の評価を除き肯定評価の割合が増加した。特に1年生の評価が4%上昇した。生徒の実態を把握した個別指導の成果が表れている。 「学ぶ意欲を高める学習指導の実践」を研究テーマとして研究授業・研究協議会を8回実施した。ペアワーク・グループワーク・調べ学習など個に応じた学習指導法の開発に努めた。今後、生徒の主體的・積極的な授業参加を促す、指導の工夫が必要である。
	② 全教職員のカウンセリング・マインドの向上を図り、職員研修会を実施する。	研修会の内容を理解した職員の割合が、 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満である。	研修会の内容を理解した職員の割合が 100% 評価 A	「保護者対応の在り方」についての研修を実施した。職員の86%が「十分理解」、14%が「概ね理解」と回答している。研修内容については、明日からでも活用できるとの感想があり、大変良いものであった。今後もニーズに合った実践的な研修会を計画する。
学校関係者評価委員会の評価	授業評価で「授業は興味深く、学習意欲がわく工夫がされている」は重要な項目であるが、専門教科に比べると共通教科が低い。低い原因をしっかりと分析してほしい。			
学校関係者評価者委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業評価をはじめ、諸々のデータをしっかりと分析・反省して教師の資質向上や学校経営の改善に努める。 評価項目や評価基準について、年々精度が高まるように検討する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
<p>2 グループワークをはじめ個に応じた学習指導により、看護師・介護福祉士国家試験合格率100%を目指す。</p>	<p>① 【衛生看護科】 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。</p>	<p><高校> 偏差値40未満の生徒が <専攻科> 偏差値38未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。</p>	<p><高校> 総合偏差値 1年：0人 評価A 2年：0人 評価A 3年：0人 評価A <専攻科> 国家試験演習を3月に実施 1年：一般0人 評価A 国家試験演習を1月に実施 2年：必修0人 評価A 一般・状況0人 評価A 看護師国家試験 全員合格</p>	<p>専門偏差値では、1年：54.1、2年：56.3、3年：55.8と確実に知識は定着している。しかし、科目によっては、補充学習が必要な生徒もいるため、引き続き学習支援を行う。</p> <p>専1：全体的に知識の定着がみられる。校内演習や臨地実習を充実させ、知識の統合や思考力・問題解決能力を高めていく。</p> <p>専2：計画的なグループ学習、弱点補習や個別指導に早期から取り組み目標レベルに達した。生徒の実態を早期に把握しこれらの取り組みを充実させる。</p>
	<p>② 【健康福祉科】 <1、2年生> 家庭学習の定着を図る。 目標時間 1年 毎日1時間 2年 毎日2時間 <3年生> 理解度が一定レベルに達するまで個別指導を実施する。</p>	<p><1、2年生> 目標家庭学習時間の達成者が(1年生：1時間、2年生：2時間) A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。 <3年生> 国家試験演習のクラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。</p>	<p><1、2年生> 目標家庭学習時間の達成者が 1年 100% 評価A 2年 100% 評価A <3年生> 国家試験演習のクラスの平均得点率が 81.2% 評価A 介護福祉士国家試験 全員合格</p>	<p>1、2年生ともに毎日の課題等の提示により目標を達成している。全員が毎日の家庭学習に取り組んでおり、12月の結果では、1年生は平均2.4時間、2年生は平均3.8時間と段々と伸びてきている。今後も課題の提示方法や内容の検討と、面談の実施により定着を図る。</p> <p>1月に行われた国家試験演習の結果である。全体評価としては、達成しているが、個々の結果では、12名の生徒が80%に達していなかった。そのため、グループ指導・個別指導を実施し、介護福祉士国家試験全員合格を果たした。</p> <p>今後は、早期からのグループ指導・個別指導を徹底し、全員合格を目指していく。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>国家試験合格に向けて頑張っている。個別指導の徹底を今後も継続してほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>地域の医療・福祉に貢献できる人材育成と、国家試験100%を継続できるよう、常に生徒の実態を把握し、個々に合った指導方法を検討し実施する。</p>			

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
3 地域の医療機関・福祉施設等を支える人材育成について、本校の大きな役割や高い実績の啓発に努め、志願者の増加に繋げる。	① 地区説明会、個別説明会等を開催し、看護師・介護福祉士の役割を啓発する。	説明会等への参加人数が、昨年度よりも A 15人以上増加した。 B 10人以上増加した。 C 5人以上増加した。 D 5人未満である。	「看護・福祉への道」説明会 昨年度32人→今年度46人 地区説明会 12会場134人 個別説明会 19人 高校説明会 7中学校 評価 C (プラス5人)	昨年度の地区説明会では17会場162人の参加。本年度の説明会でも、本校が国家資格取得の最短コースであること、学習内容、進路状況、看護・福祉の魅力等の説明をした。個別説明会では、中学生や保護者の疑問や質問に答え、きめ細かな情報提供を行った。潜在的にある看護・福祉への関心を志願に結びつける工夫が必要である。
	② 健康チェック・出前授業を実施し、衛生看護科への理解を深める。	参加者が「衛生看護科の理解を深めた」と回答した人数の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。	アンケート結果(健康チェック14回実施) 87.0% 評価 B	現在までに地域の中学校文化祭、地域の祭りなどで14回の健康チェックと2回の出前授業を実施した。健康チェック参加者に対して、測定結果をもとに生活習慣病予防について簡単に説明を加えたことがとても好評であった。また、出前授業では、看護への興味・関心が高められた。
	③ 中学生や地域の方々に本校への理解を深めてもらうために、行事参加機会と情報提供に努める。	学校公開行事への参加人数が、昨年度よりも A 20人以上増加した。 B 15人以上増加した。 C 10人以上増加した。 D 10人未満である。	学校開放講座：昨年度35人→今年度42人 学校祭：昨年度12人→今年度11人 学校公開：昨年度84人→今年度101人 評価 A (プラス23人)	学校開放講座は定員が20人となっているので、ある程度評価できる。学校祭は、一般公開ではなく、町内に配布した招待券持参者という限定であるので、中学生の希望者を招待する方法を検討したい。学校公開は、施設利用者の招待者が主である。平日開催でも、参加数を増やす工夫が求められる。
学校関係者評価委員会の評価	田鶴浜高校の卒業生が、地域の医療や福祉の現場に貢献していることを認識している。今後も地域や中学校へのPR活動の手法について工夫をこらしてほしい。健康チェックやボランティア活動を通しての地域への貢献も大きい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	外部への案内や募集、連携については、連携先や案内・依頼方法を検討し、効果的なものにしていく。			

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取組み(改善策等)
4:部活動やボランティア活動等の課外活動を推奨し、心身の調和的な発達並びにコミュニケーション力の向上を図る。	①:部活動を推奨する。	個々の参加率が A 90%以上 B 70~90% C 50~70% D 50%未満である。 ※3年生は総体・総文まで	前期 → 後期 A 46.7% A 43.5% B 22.7% B 22.1% C 17.0% C 25.3% D 13.5% D 9.1% Dの占有率は20%以下	前期のDの割合が13.5%、後期が9.1%であり、目標は達成できている。しかし、実態としてD生徒の部活動への参加が改善されたとは言い難い。引き続き、部活動の変更を含め、指導をしていく必要がある。
	②:地域の行事等に関わるボランティア活動に取り組む。	年間ボランティア活動時間が16時間をこえる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である	全体で103人の生徒が16時間を上回っている(228人中) 45.2% 評価D	年間を通じて延べ日数1033日、累計時間5062.25時間、参加人数207人のボランティア活動があった。いずれの数値も昨年度を大きく上回る過去最高のものであった。ただし、クラス間や生徒間での取り組みに大きな開きがあった。夏休み期間中が一番取り組みやすく、年度当初と夏休み前に、ボランティア活動に対する意識付けをする必要がある。
	③:健康チェック・ボランティア等の活動を通し、他者と積極的に対話する。	ボランティア実施後のコミュニケーションに関する自己評価が高くなった生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	<衛生看護科> 80.0% 評価A <健康福祉科> 93.5% 評価A	<衛生看護科> 1~3年の結果:80.2%、専1~2年の結果:79.7% ボランティア等を通して他者と関わる機会を意図的に持ったことで対話力が以前より増している。 <健康福祉科> ボランティアだけでなく校外実習もコミュニケーション力向上に繋がっていると思われる。今後も多くの機会を捉えコミュニケーション力向上に繋げたい。
学校関係者評価委員会の評価	健康チェックやボランティア活動を通じて、生徒のコミュニケーション能力が高まっているのが感じられた。本校が看護師や介護福祉士養成の学校であることの認識の下に、心の教育をより一層推進してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法	本校の人材・資源等を地域の中で活用する取り組みを今後とも積極的に推進し、「地域に信頼される学校づくり」を図っていく。			